3-14 関東・東海地域における最近の地殻傾斜連続観測 (1985年5月~1985年10月)

Recent continuous measurements of crustal tilt in the Kanto-Tokai area (May - Oct., 1985)

国立防災科学技術センター

National Research Center for Disaster Prevention

前報に引き続き,孔井用傾斜計による地殻傾斜の連続観測結果について報告する。観測点の 分布を第1図に示す。第2図に傾斜の毎時値を第1図に示す地域毎に分けて南北及び東西成分 について示す。参考のために,各観測点における日降水量を第3図に示す。

この期間内で特筆すべき事項を以下に列記する。

- 1. 10月4日に茨城・千葉県境付近で M6.1 の地震が発生したが、この地震の前兆変化は認め られなかった。また、この他にもこの期間茨城・千葉県内に M4 クラスの地震が数個発生し ているが、いずれも震源の深さがやや深めであり、はっきりした前兆変化は認められない。
- 2. 9月13日に駿河湾内中央付近に M3.9の地震が発生したが、この地震の前兆的変動は認められなかった。
- 3. この期間6月中旬から7月上旬にかけて降水量が多く、その影響による変化が多くの観測 点で出ている。特に6月末から7月初めにかけて通過した台風6号に伴う降水及び気圧変化 の影響による変化が大きい。
- 4. JIZ は唯一横穴の観測点で,降雨の影響が大きい所であるが,NS 成分が5月,7月,8月 に降雨によるレスポンスとは異なる変化をしている。しかし,EW 成分には変化は出ていな い。
- 5. ENZ において9月中旬ごろE下がりの大きな変化があった。この変化は約17日間続き, その後は変化発生前からのトレンドに沿う所にもどった。この間NS成分にはほとんど変化 は出ていない。
- AKW では5月中旬ごろ雷の被害を受け、地上部分のヒューズや増幅器等が故障した。
 EW 成分は地中部にも被害が及び、地上部を復旧させた後も.記録が乱れぎみである。また、
 トレンドがE下がりに大きく変ってきているが、この影響によるものかも知れない。
- 7. ASG における 9 月初旬の変化は、雷による被害の修理に伴うものである。
- 8. OSMのNS成分の5月~6月にかけての変化は、3月に実施した計器の保守点検直後 から続くものであり、その影響によるものと思われる。しかし、10月中旬から両成分に出て

いる変化は原因不明である。



Fig. 1 Distribution of crustal tilt observation stations, which are divided into five groups.







Fig. 2 (Continued)



Fig. 2 (Continued)



Fig. 2 (Continued)



Fig. 2 (Continued)



Fig. 2 (Continued)







Fig. 3 (Continued)



